

府立植物園 魅力あふれる施設 整備計画〈概要〉

平成21年10月
文化環境部

I 策定の趣旨

日本で最初に開園し、「生きた植物の博物館」として発展を続け、「憩いの場」として広く府民に親しまれてきた日本を代表する総合植物園である府立植物園の魅力をも、一人でも多くの皆様に知っていただき、足を運んでいただくため、平成19年度に策定した「府立植物園の未来図」夢プランを踏まえ、府立植物園施設整備計画を策定

― 〈「府立植物園の未来図」夢プラン〉 ―

- ・高い技術力など「ほんまもん」の強みを発揮しつつ「おもてなし」の精神を大切に府民の思いに応える楽しさいっぱいの植物園を目指し、備えるべきハード、ソフトの考え方を整理

II 現状と課題

〈現状〉

- 世界が認めるディスプレイガーデンとして高度な栽培技術やハイセンスな展示力、集客力等が、世界最高水準として国内外から高く評価
- 平成4年度（新観覧温室開園）のピーク時に140万人を超えた入園者数が、近年は60万人台で推移、平成18年度からは70万人台に回復し3年連続で国内公立植物園最多の入園者数
- 地球環境問題の深刻化による緑への関心の高まり、少子高齢化の進展、家庭・地域のきずなの希薄化、IT化の進展等によるニーズの変化、多様化など社会経済情勢の大きな変化に直面

〈課題〉

- 府民の貴重な財産である植物園の真の価値を広く発信し、享受してもらうことが必要
- 時代の変遷や社会状況の変化に伴う新たなニーズへの対応が必要
- 「おもてなしの心によるサービスのよい施設」であることが必要
- 海外からも高く評価されている植物栽培技術を継承、発展させていくため、計画的な人的・物的体制の確保充実が早急に必要

III 施設整備の基本コンセプト

「日本一おもしろい、心やすらぐ植物園」 *おもしろい：心ひかれる、興味深い、楽しい

IV コンセプト実現のための3つの視点

1 「心をひかれる ～ ビジュアル・アピール～」

見てもらって、わかってもらってなんぼ。思わず入りたくなる施設や興味を抱いてもらえる展示手法

2 「目をみはる ～ 超多様体感～」

生きたほんまもん植物の展示・技の継承

3 「心がやすらぐ ～ 非日常空間・文化～」

現代人のオアシス、京都らしい文化・古典に思いを馳せる展示

☆ 「3つの視点を支える基盤整備」

施設整備の基礎となるライフラインの整備、アメニティの向上、人的・物的体制の確保充実

V コンセプト実現のための15の重点施策

① 心をひかれる～ビジュアルアピール～

- 心が弾み入りたくなる「エントランス（開放感あるレストランやショップ、植物殿堂館、展示施設等併設）」整備、ゲート増設、分かり易く魅力あるアプローチ整備
- 園全景の眺望や高木を観察できる「空中回廊（トリの目）」や「水中塔（サカナの目）」、「根っこホール（モグラの目）」など多彩な生物視界展示施設の整備
- 花に彩られた「オープンカフェ」、お勧めビュースポット、「妖精の遊び場（ログ風東屋、植物模型遊具）」、「ボタニカル・ウィンドウ」などフォーカス・スポット整備
- 「モバイル」活用の植物トリビア情報入手システム、植物管理情報システムの整備
- 展示植物の由来、特色など一歩進んだ楽しみを提供するサインガイドの整備

② 目をみはる～超多様体感～

- 生きた植物の多環境対応展示施設、園芸相談や教育・学習施設、標本室等を備えた「植物殿堂館」の整備
- 植物育成の根幹であるバックヤードの整備、北山ゾーンと一体性を持った園隣接の「桜の園、梅林園」の整備や分園の検討、高度な植物育成栽培技術の継承等のための専門人材・物的体制の早急な確保充実
- 希少な古典園芸植物等の常設展示場、夜咲き植物を鑑賞する「ブラインドコントロール室」、多様な環境に自生する植物を栽培展示する「高山植物栽培室」など、技と知恵の展示・伝承施設の整備

③ 心がやすらぐ～非日常空間・文化～

- 憩いの「グリーンカフェ」、緑に包まれた「隠れ家トイレ」、森の力で心をリラックスさせる「平安原生林（なからぎの森）」、京のいにしえを彷彿とさせる「平安の小径」などのやすらぎスポットや、花と対話できる立体的な小丘陵展示場の整備
- 川端康成ゆかりの「『古都』の並木道（くすのき並木）」を文化スポットとして整備
- 「古典園芸植物エリア」や「古典文学ゆかりの小径」整備、メインストリートネーミングなど京の古典、文化に思いを馳せる古典園芸植物・栽培文化の伝承・展示施設の整備
- 3つの視点に基づく新たな施設整備とあわせ、園全体の魅力向上のため既存の栽培展示エリアや老朽化した施設・設備の計画的なリニューアル整備

☆ 3つの視点を支える基盤整備

- 老朽化している配管改修、安全安心を確保する電気設備、IT等の基盤整備
- 園路整備、来園者の安全性・利便性向上を図る巡回トラムの運行、駐車場整備
- 国内外から高く評価されている高度な植物育成栽培技術の継承、新たに整備する施設の効果的活用のため、専門人材・物的体制の早急な確保充実

VI 整備工程・整備手法等

1 整備工程 … エボック（時期）に応じ、計画的かつ段階的に整備

<第1段階> 計画策定後直ちに

ライフライン、北山門エントランス・オープンカフェ、ボタニカルウインドウ、古典園芸植物展示場、グリーンカフェ、バックヤード充実、隠れ家トイレ、ビュースポット、植物サインガイドなど

<第2段階> 再開園50周年（平成23年） *国民文化祭の京都開催

ブラインドコントロール室、高山植物栽培室、平安の小径・平安原生林、小丘陵（花との対話）、バックヤード充実、水中塔、根っこホール、妖精の遊び場、くすのき並木、古典園芸植物エリアなど

<第3段階> 開園90周年（平成26年）

正門エントランス、植物殿堂館、空中回廊、桜の園・梅林園、ゲート増設、ボタニカル・テラス、ウインドウ、植物情報システム、巡回トラム運行、既存栽培展示エリア等のリニューアルなど

2 整備手法

- 施設整備を計画的、効率的に進めるため、「基盤整備」をはじめ生物視界展示、植物殿堂館、技と知恵の展示施設などの「魅力創出する施設」の整備は府の直営整備を基本とし、レストラン、カフェ等の「飲食等提供施設や収益施設」については民間ノウハウ、資本の活用を検討するなど施設の性格に応じた整備が妥当
- また、施設・設備の整備・維持管理のため、基金創設等の検討が必要

3 体制整備

- 世界水準として評価されている高い植物栽培技術を着実に継承するとともに、新たに整備する施設を効果的に活用していくため、豊富で幅広い理論・知識に裏付けられた熱意ある人材の確実な補充が不可欠

<参 考>

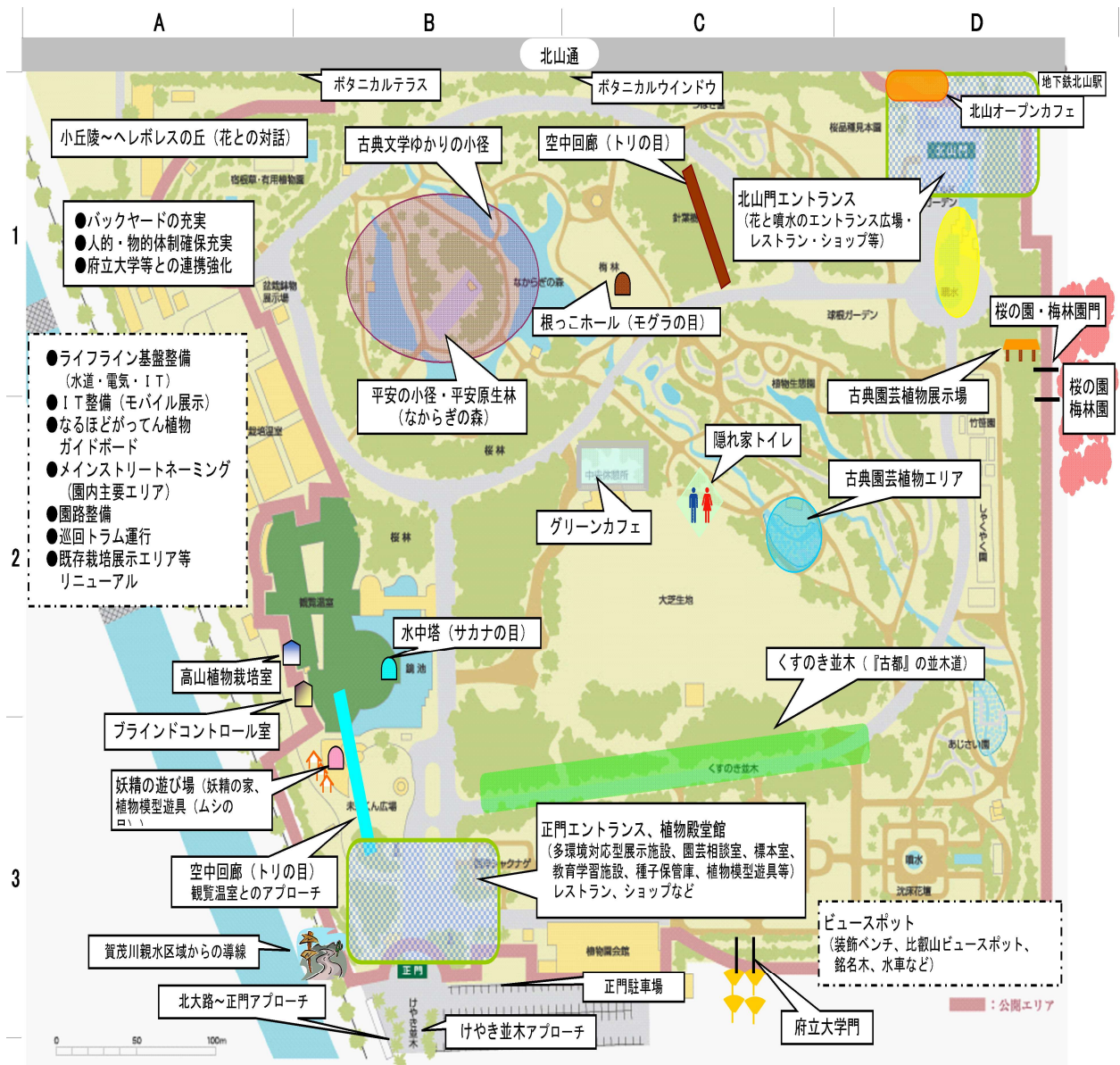
1 府立植物園施設整備計画検討委員会委員 (委員は50音順)

邑田 仁 (座長)	日本植物園協会会長・東京大学小石川植物園園長
梶田 真章	法然院貴主
公文 俊一	北山街協同組合理事長
関根 英爾	元京都新聞論説委員
竹葉 剛	京都府立大学学長
塚本 眞理	(有)コンパイル代表取締役
戸部 博	京都大学大学院理学研究科教授
福村 毅之	北大路商店街振興組合理事長
松谷 茂	京都府立植物園園長
森田りえ子	日本画家
高林 成年 (オガザハ-)	(財)京都園芸倶楽部会長・元京都府立植物園園長

2 検討会議開催経過

第1回	平成21年6月 5日	・府立植物園の現状等、園内視察 ・将来像・整備コンセプト等
第2回	平成21年6月26日	・具体的な施設・方策等の検討 ・「府立植物園施設整備計画」の検討中間状況
第3回	平成21年7月22日	・府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画(案)のまとめ(施設整備の考え方、整備工程・整備手法等)

【参考】整備計画イメージ図



府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画

～ 日本一おもしろい、心やすらぐ植物園となるために ～



平成21年10月

府立植物園施設整備計画検討委員会

目 次

I 趣 旨	1
II 現状と課題	2
III 施設整備の考え方	5
IV 整備工程・整備手法等	13
V 整備計画イメージ図	16

I 趣 旨

- 京都府立植物園は、日本で最初に開園した日本を代表する総合植物園であり、「生きた植物の博物館」として発展を続け、「憩いの場」として広く府民に愛され親しまれてきました。この府民の貴重な財産である植物園の魅力を一人数でも多くの皆様に知っていただき、足を運んでいただくため、平成19年度に策定された「府立植物園の未来図」夢プランを踏まえ、施設整備計画の基本をまとめるものです。



※ 春の正門花壇・観覧温室、桜林



※ 紅葉に彩られた なからぎの森

< 「府立植物園の未来図」夢プラン >

- 平成19年度に、年間入園者数100万人を目標に、備えるべきハード、ソフトの考え方を整理した「府立植物園の未来図」夢プランを作成。
- 高い技術力などの「ほんまもん」の強みを発揮しつつ、「おもてなし」の精神を大切に府民の思いにこたえる楽しさいっぱいの植物園を目指すこととした。

Ⅱ 現状と課題

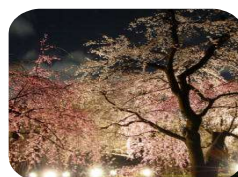
1 府立植物園の歩み

- 大正13年（1924年）、教育を基本に大自然に接して英気を養い園内遊覧のうちに草木の名称、用途、食用・熱帯・有毒・特用(染料、工芸)・薬用及び園芸植物の知識と天然の摂理を普及させ、我が国植物学界各分野の学術研究に資することを目的に「大典記念京都植物園」として開園。昭和21年（1946年）から12年間連合軍に接收され、多くの樹木が伐採されました。
- 昭和36年（1961年）、植物を育成栽培し広く府民のいこいの場としてこれを公開し、植物の観賞を通じて一般の教養に資するとともに、植物学の研究に寄与するための施設としてその姿を一新し、再開園。
- 園の植物栽培技術者のたゆまぬ努力と、平成4年(1992年)の「新観覧温室」など計画的な整備を経て、本年度で開園85周年を迎え、現在では国内最多の1万2千種類12万本の植物を保有し、日本を代表する総合植物園として国内外から高く評価されています。

2 府立植物園の現状

- 世界が認めるディスプレイガーデンとして高度な技術を有し、植物の高度な栽培技術やハイセンスな展示力、集客力が世界最高水準として認められ、国内はもとより世界的にも非常に高い評価を得ています。

- 年間入園者数は新観覧温室が竣工した平成4年度の140万人をピークに近年は60万人台で推移していましたが、園職員をはじめ協力団体との協働などによる様々な取組みが功を奏し、平成18年度からは70万人台に回復、3年連続で国内公立植物園最多の入園者数となっています。



※ 桜ライトアップ



※ 温室夜間開園

- 近年、地球環境問題の深刻化による緑への関心の高まり、少子高齢化の進展や団塊世代の大量退職、知的好奇心の高まり、家庭・地域のきずなの希薄化、IT化の急速な進展等によるニーズの変化、多様化など社会経済情勢の大きな変化に直面している状況にあります。

— 名実ともに日本を代表する植物園 —

○ ナンバーワンの数々

- ◆国内最多の保有植物種類（1万2千種類・12万本）、東アジアトップクラスの「観覧温室」
- ◆我が国最初の公立総合植物園で3年連続入園者数第1位

○ 国内外から高く評価される植物栽培管理技術力

- ◆「イクム・ウルト プレティー」露地栽培での国内初開花、「奇想天外」人工授粉・実生栽培成功等、「バオバブ」国内初開花など

○ 世界に認められた「高い総合力」

- ◆国際的草花審査会（AAS、FS）公認の東アジア唯一のディスプレイガーデン
 - * AAS（オールアメリカンソサエティ 1932年設立。本部：アメリカ）… 世界で最も優れた新品種が集まる審査会
 - FS（フランダース 1970年設立。本部：オランダ）… 全欧州草花審査会。この審査で評価を得た新品種は草花専門家等の中でも極めて信頼度が高い。
 - * AAS、FSは世界的に最も権威が高い2大草花審査会



※ イクム・ウルト プレティー

高さ2mの花茎に2万個の花
日本一の“宝石の塔”



※ バオバブの花

「星の王子さま」でも有名。世界で
9種のうち7種の収集展示は日本一



※ AAS・FS金賞受賞品種を
展示する北山ワイルドガーデン

○ 京都の文化・環境のシンボリック存在としての「植物園」

- ◆山城盆地の原植生を今に伝える「なからぎの森」、平安の都人も愛でた植物の生態展示、文豪川端康成も愛した「くすのき並木」等
- ◆洛中であって三方を世界遺産に囲まれた24haの緑のオアシス … 比叡山や北山連峰が人工物に遮られずに園内から眺望できる、他に類を見ない素晴らしいロケーション

○ 世界と交流する「植物園」

- ◆昭和9年(1934年)から75年間に亘り海外の著名な植物園と種子交換等を行い、世界的規模で植物財産の充実、普及を図っています。
 - ・分譲：36ヶ国、129園に分譲（101種）
 - ・導入：17ヶ国、31園から導入（193種） *平成20年度実績
 - *ニューヨーク植物園：平成13年、視察来園時に京都の野生樹木種子25種を分譲
 - キュー王立植物園：毎年種子交換リスト発送



※ 比叡山を借景にしたバラ園の眺望



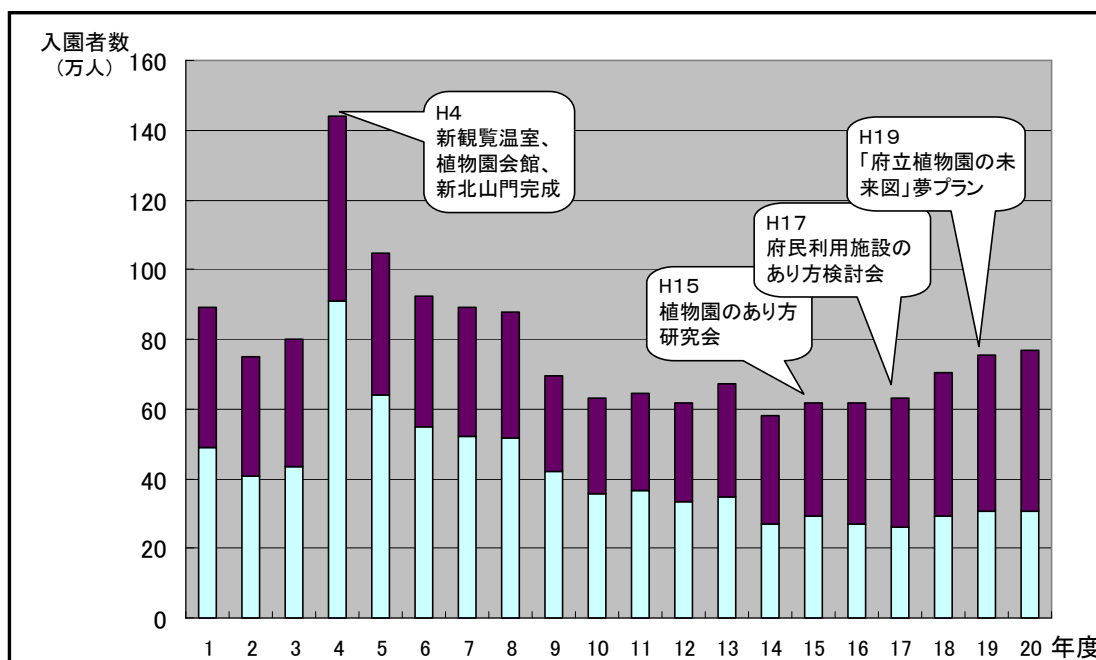
※ 雪景色の凛とした姿の洋風庭園

3 課題

- 府民の貴重な財産である植物園の真の価値を広く発信し、享受してもらう必要があります。
- 時代の変遷、社会状況の変化に伴う新たなニーズへの対応が必要となっています。
- 来園者に満足いただけるように、「おもてなしの心によるサービスのよい施設」であることが求められています。
- 日本のみならず海外からも高く評価されている植物栽培技術を継承、発展させていくため、計画的な人的・物的体制の確保充実が早急に必要となっています。
- 北山文化環境ゾーンと一体性のある整備が必要です。

<参考>

◆植物園入園者数・職員数の推移



近年の職員数推移

年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21
事 務	10	10	10	9	9	9	8	8	8
技 術	30	30	29	29	29	28	28	27	27
計	40	40	39	38	38	37	36	35	35

* 事務には、営繕(1⑩退職)・保安(2→1⑨)含む

Ⅲ 施設整備の考え方

《 基本コンセプト 》

- 人々が花と緑に抱かれて心豊かなやすらぎに浸り、生きた、ほんまものの植物を目の当たりに、京都の文化・古典にも思いを巡らせながらくつろぎのひとつときを過ごすことのできる空間として、府民はもとより、環境先進地である京都府を象徴する文化・環境拠点として広く国内外の方々に足を運んでいただき、「ほんまもん」の京都文化を発信、継承していくため、日本一おもしろく、心やすらぐ植物園であるためには、より一層魅力あふれる府立植物園となる必要があります。

日本一おもしろい、心やすらぐ植物園

*おもしろい：
心ひかれる、興味深い、楽しい

～ 生きた植物の博物館。興味を持ち、関心を高め、何度でも行きたくなる
ワクワクする展示・品揃え・知識を提供 ～

★ 実現のための3つの視点（施設整備・方策）

- そのためには、植物園・植物に興味を持っていただき、世界水準の貴重な植物に会いにきていただくこと、一旦園内に足を入れるとワクワクする展示や、思わず驚く品揃えの高い技術力に支えられたほんまものの植物でお迎えすること、都会の喧噪を離れ、緑に囲まれたゆったりとした時の流れの中で心をやすらげていただくことが大切です。
- また、文化・環境・学術の交流・発信拠点を目指して現在、検討が進められている北山文化環境ゾーンの整備と連携を図る中で、地域全体としてより相乗効果があがるような整備が望まれます。

- 以下の3つの視点に基づき、より一層魅力あふれる府立植物園となるよう、計画的、段階的な整備を図る必要があります。

1 心をひかれる ～ビジュアル・アピール～

- 視点 : 見てもらって、わかってもらってなんぼ
思わず入りたくなる施設や興味を抱いてもらえる展示手法

2 目をみはる ～超多様体感～

- 視点 : 生きたほんまもん植物の展示・技の継承

3 心がやすらぐ ～非日常空間・文化～

- 視点 : 現代人のオアシス、
京都らしい文化・古典に思いを馳せる展示施設



※ 花の回廊～高い技術力の結晶である早春の草花展～



※ 緑に囲まれた大芝生地

1 心をひかれる ～ビジュアル・アピール～

- 「見てもらい、わかってもらってなんぼ」思わず入りたくなる施設や興味を抱いてもらえる展示手法、オリジナルブランド（ロゴマーク）などの工夫により、植物園に興味や期待感を持っていただける心の弾む施設の整備

日本一の植物園といえども、まずは入園していただかないとその素晴らしさに触れていただくことができません。そのため、まずは植物園に興味を持ってもらい、思わず入園したくなるような外部に向けたビジュアルなメッセージを描出する必要があります。

また、一旦入園いただいた皆様には、植物の美しさ、可憐さ、力強さ、生命力、やすらぎの力、植物に秘められた物語や思いもよらない性質などに触れていただき、植物への関心を高め、次に来たとき、何に驚かされるのだろうかという期待感を抱いていただき、リピートに結びつくような環境整備を行う必要があります。

【 主な内容 】

項目	施設・方策等	目的等
エントランス	北山門エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北山の街並のイメージにマッチした装いで、心が弾み思わず入りたくなるエントランス ○ 開放感のあるレストランやオリジナルグッズ、植物関連図書等を販売するショップ、季節の植物の展示室など、噴水を配した広場や花に囲まれた潤いのある誘導空間となるよう整備
	正門エントランス	<ul style="list-style-type: none"> ○ レストランやショップ、多環境対応型の展示施設や園芸相談、標本室、教育学習施設等を備えた植物殿堂館（後述）などを一体的に整備し、ワンストップサービスを実現（展示室は雨天時等の団体客や児童生徒の食事休憩、待避スペース等にも活用） ○ 賀茂川親水区域との連続性に配慮
	ゲートの増設 (桜の園・梅林園ゲート等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桜の園・梅林園ゲート、府立大学ゲート ○ 北山文化環境ゾーンとの回遊性・連続性をもったアプローチを整備
	自動改札ゲート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入園者の利便性向上・北山文化環境ゾーンの回遊性確保のため、各門に自動改札ゲートを設置
	北大路～正門アプローチ けやき並木アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かり易い案内表示、ワクワクするパネル展示、全天候型の歩道や車道の整備、アプローチの美観再検討など、心を浮き立たせる並木道等のアプローチ整備 ○ COP3記念モニュメントをエントランスシンボルとした周辺整備 ○ 休日花市も可能な、歩きやすく人をひきこむ魅力ある歩道を整備
	賀茂川親水区域からの導線	<ul style="list-style-type: none"> ○ なからぎの道から正門エントランスへの導線を整備

項目	施設・方策等	目的等
生物視界展示	空中回廊（トリの目）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正門～観覧温室の空中回廊 … 正門付近から園全景を眺望しながら観覧温室へのアプローチとして回廊を整備。温室内ジャングルゾーン内も俯瞰 ○ 針葉樹林の空中回廊 … 目線の高さで高木を歩きながら観察できる回廊を整備
	水中塔（サカナの目）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観覧温室内の池にスロープ状に設置。アクリルシーリング越しにマングローブの根などをサカナの目線で楽しめるスポット
	根っこホール（モグラの目）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地中回廊を歩きながら、タンポポや桐などの根をモグラの目線で楽しめるスポット。京都の地質や地下水の紹介展示を併設し、多様な学びを体験
	植物模型遊具（ムシの目）	<ul style="list-style-type: none"> ○ ムシの目線で花の内部、食虫植物の捕虫器官等に入入りする楽しみを体験
フォーカス・スポット展示	北山オープンカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思わず入りたくなるような、花に彩られた明るい装いの北山エントランスと調和したカフェ
	ビュースポット	<ul style="list-style-type: none"> ○ 四季を通じて植物（花）を楽しみ、装飾ベンチや園長お勧めの比叡山ビュースポットなど、心が豊かになるポイントの整備 ○ 銘名木、水車など来園者にストーリー感のあるしつらえて満足をもたらす工夫 ○ 記念写真や結婚写真を撮りたくなるメモリアルビュースポットも整備
	妖精の遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府内産木材を利用したログ風東屋（妖精の家）を子供達の森の学習（図書、ミニ体験）や雨天時等の休憩スポットとして整備 ○ 花を模したすべり台など植物模型遊具（ムシの目）など子供達の楽しみスポットとして整備
	ボタニカル・ウィンドウ、テラス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見ごろの植物やイベントなど植物園の魅力を外側に伝えるショーウィンドウ、ショーテラスを設置し、ふれあい（交流）空間を整備
モバイル展示	植物情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 携帯端末を利用して、いつでもどこでも誰もが、植物トリビア情報など植物園情報が入手できるシステムを整備 ○ 園内植物管理情報システムの整備
知ってオモシロ見て納得するサインガイド	なるほどがってん植物ガイドボード	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主な展示植物に設置。展示植物の由来、見分け、特色などを深く広く知る、一歩進んだ楽しみを提供

2 目をみはる ～超多様体感～

○ 生きた植物の博物館である植物園(Botanical Garden)の使命として
 “生きた植物を生かしたまま後世に伝え残し続ける”とともに、その成果を府民
 に還元するため、多様な植物財産を展示し鑑賞してもらう「生きたほんまものの
 植物の展示」や、それを支える「技の継承」を体感、実現する施設及び体制整備

止まっているように見えて動いている植物、同じように見えて全く違う植物、全く違うように見えて同じ種類の植物、虫を食べる植物、春に群生する植物、2万個もの小さな花をつける“宝石の塔”など、植物園の真髄は目をみはる多様な植物が、生きたまま目の前で見ることができるところにあります。

これらを体系だてきちんとご覧いただき、絶やすことのないよう日々刻々、高度な専門技術を駆使してその生命をつないでいくことのできる体制整備や環境整備が不可欠です。

【 主な内容 】

項目	施設・方策等	目的等
植物殿堂館	多環境対応型展示施設、園芸相談室、香りの部屋、標本室、種子保管庫、図書室、ホール、教育・学習・実習施設、植物模型遊具等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界に通用する植物園として、生きた植物の多環境対応型展示施設など博物館機能を備えた殿堂を整備 ○ 地域との連携・回遊を生む施設として、館内には園芸相談や教育・学習・実習施設、標本室等を整備 ○ 現植物園会館は研修・研究棟として一部改修整備し、殿堂館と有機的な連携を図る。
バックヤード	バックヤードの充実	○ 植物園の植物育成の根幹であるバックヤードの整備が不可欠。作業用地の確保、植物保管場の増設と併せ、給水・散水、照明、空調設備等を整備
	近隣施設との連携、隣接地活用、分園構想	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北山ゾーンと一体性のある導線を整備するため、新設門外に展示・栽培機能を持った桜の園、梅林園を整備 ○ 限られたバックヤードの有効活用のため、保存・育苗植物、資材等を保管する分園を検討
体制整備	人的・物的体制の確保（補充、育成）・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内外から高く評価されている高度な植物育成栽培技術を継承し、貴重な植物を絶やすことなく将来人類に引き継ぐとともに、新たに整備する施設を効果的に活用するため、専門人材・物的体制の計画的な確保（補充、育成）・充実を早急に図る。 ○ 京都府立大学等との連携による、先進的な育成栽培プロジェクト等の研究・教育やサインガイドの充実等を図る。
技と知恵の展示・相談・伝承	古典園芸植物展示場	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典園芸植物をはじめ、四季折々の代表的でありながら希少な古典園芸植物等の常設展示場を整備 ○ 100年以上前から民間に伝わる高い技を受け継いだ京都固有の古典園芸植物文化の展示と、次世代への伝承（再掲）
	ブラインドコントロール室	○ 夜咲く植物を昼間に見せるなどの多様な展示機能を備えた部屋の整備（照明、空調）
	高山植物栽培室	○ 多様な植物を通して自然や環境、環境と人との共生を考えるきっかけを与えることのできるよう、京都の深山に自生する植物や熱帯地域等の高山地帯の自生植物など、多様な環境に自生する植物を保管・栽培・展示

3 心がやすらぐ ～非日常空間・文化～

○ 洛中において緑に心を浸し、日常から離れたひとときを過ごせる現代人のこころのオアシスであるとともに、京都の文化や古典に思いを馳せることのできる施設整備

時間やあふれる情報に追われる現代人にとって、緑に包まれ、時間がたおやかに流れる植物園は、まさに心のオアシスです。

心のやすらぎを全身で感じていただけるよう、異空間に歩み入ったかの印象を受けるデザインや植物空間を創出する施設整備が必要です。

また、心にやすらぎをもたらすストーリー性を持った植物空間の見せ方を工夫するための施設整備が必要です。

【 主な内容 】

項目	施設・方策等	目的等
やすらぎスポット	グリーンカフェ	○ 開放感溢れる大芝生地の憩いの場となる緑のカフェ。視界が大きく広がるカフェで、緑に包まれたやすらぎを体感
	隠れ家トイレ	○ 大芝生地で走り、森に遊ぶ“子供たち”の隠れ家 ○ 緑に包まれた“植物園ならではの”アメニティ空間
	平安の小径・平安原生林（なからぎの森）	○ 山城盆地の原生の姿を今に留める一帯を、森の力で心をリラックスさせる魅力あるスポット「なからぎの森」として整備 ○ 平安の時代を彷彿とさせる平安の小径など、時を旅する心地よさが、広く口コミで伝わる京のいにしえの歴史、文化スポットの整備、情報発信
	桜の園、梅林園	○ 北山地域と回遊性をもったエリアの一体性を創出する導線として、新設する植物園の門の外側に園に入る期待感を抱かせる桜の園などを整備（再掲）
話しかけ展示	小丘陵～ヘレボレスの丘（花との対話）	○ 宿根草・有用植物園をユニバーサルデザインに配慮した立体的な展示場として整備。車イスの高さの目線でも楽しめる花と対話できる新しい展示スタイルを構築
古都の並木道	くすのき並木	○ 文豪・川端康成ゆかりの『古都』の並木道を、地域との回遊性のある文化スポットとして整備

項目	施設・方策等	目的等
古典園芸植物 ・栽培文化の 伝承・展示	古典園芸植物エリア	○ 花菖蒲や寺社仏閣から預かっているカキツバタなど、江戸期から伝わる貴重種の保存・栽培・展示エリアの整備により、京の古典、文化に思いをはせるスポットとして広く発信
	古典園芸植物展示場	○ 古典園芸植物をはじめ、四季折々の代表的でありながら希少な古典園芸植物等の常設展示場を整備 ○ 100年以上前から民間に伝わる高い技を受け継いだ京都固有の古典園芸植物文化の展示と、次世代への伝承（再掲）
	古典文学ゆかりの小径整備、メインストリートネーミング	○ 源氏物語、枕草子や『古都』など京都ゆかりの文学に登場する植物を紹介するコースの設定による京の文化を広く発信 ○ メインストリートのネーミングなど来園者が親しみを持つ仕掛けの工夫



※ くすのき並木～小説『古都』の舞台～

抜粋～「西陣の大夫宗助は、植物園の中に、好きな並木道があった。楠の並木道である。楠は大木ではないし、道も長くはないのだが、よく歩きに行ったものだ。」



※ 紅葉のけやき並木

- 3つの視点に基づく新たな施設整備とあわせて、府立植物園全体がより一層魅力に溢れた施設となるよう、既存の栽培展示エリアをはじめ、老朽化した施設・設備のリニューアル、整備を計画的に行う必要があります。

★ 3つの視点を支え実現する基盤整備

○ 施設整備の基礎となる基盤整備、園路等アメニティ向上のための整備を行うとともに、高度な育成栽培技術の継承、新たに整備する施設の効果的活用のため、人的体制等の確保充実を早急に図る必要があります。

項目	施設・方策等	目的等
ライフライン	水道	○ 老朽化している水道配管改修整備
	電気	○ 入園者の安全安心を確保する電気設備の整備
	I T	○ モバイル展示や電子案内ビジョンに対応できる光ファイバー網の構築
その他	園路	○ ユニバーサルデザインの園路整備（地球環境にやさしい素材を用いた全天候タイプ、歩いても疲れない、すべりにくく、段差の少ない園路）
	巡回トラム（電気自動車、ペロタクシー等）の運行	○ 環境やユニバーサルデザインに配慮した園内巡回トラム（電気自動車、ペロタクシー等）の運行により来園者の安全性、利便性の向上を図る。
	駐車場	○ 来園者の利便向上、入園者増に対応
体制整備	人的・物的体制の確保（補充、育成）・充実	○ 国内外から高く評価されている高度な植物育成栽培技術を継承し、貴重な植物を絶やすことなく将来人類に引き継ぐとともに、新たに整備する施設を効果的に活用するため、専門人材・物的体制の計画的な確保（補充、育成）・充実を早急に図る。 ○ 京都府立大学等との連携による、先進的な育成栽培プロジェクト等の研究・教育やサインガイドの充実等を図る。（再掲）



※ 高度で洗練された技が要求されるカイツカイブキの剪定（園内に400本）。当園オリジナルの剪定法を活かした独創的な樹形は、世界的にも日本屈指と高く評価



※ ソテツの菰囲い作業。400枚もの菰を1枚つつ丁寧、株元から積み重ね上げ、亜熱帯植物の防寒と観賞を両立。師走の風物詩として、毎年マスコミ報道

Ⅳ 整備工程・整備手法等

1 整備工程の考え方

24haに及ぶ施設であり、また、北山文化環境ゾーンとの連携を図る中で、新たな魅力を創出する施設の整備にあたっては、エポック（時期）に応じた計画的かつ段階的な整備が求められます。

2 エポック（時期）に応じた進捗

第1段階：計画策定後直ちに

- ライフライン等（水道、電気、ITなど）
- 北山門エントランス、北山オープンカフェ
（北山門、レストラン、ショップ、展示室等）
- ボタニカル・ウインドウ、テラス
- グリーンカフェ
- 古典園芸植物展示場
- バックヤードの充実（作業用地、植物保管場など）
- 隠れ家トイレ
- なるほどがってん植物ガイドボード
- ビュー・スポット（お勧めのビュースポットなど * 順次拡充）



※ 北山門噴水広場



※ 50回目を迎えた全国最大規模の朝顔展

第2段階：再開園50周年（平成23年）

*平成23年 国民文化祭の京都開催

*再開園 昭和36年4月24日

- ブラインドコントロール室、高山植物栽培室
- 平安の小径・平安原生林（なからぎの森）
- 小丘陵～ヘレボレスの丘（花との対話）
- バックヤードの充実（給水・散水、照明、空調設備等）
- 水中塔（サカナの目）、根っこホール（モグラの目）
- 妖精の遊び場（妖精の家、植物模型遊具（ムシの目））
- くすのき並木（『古都』の並木道）
- 古典園芸植物エリア、古典文学ゆかりの小径
 - ・メインストリートネーミング



※なからぎの森

第3段階：開園90周年（平成26年）

*開園 大正13年1月1日

- 正門エントランス（正門、レストラン、ショップなど）
- 植物殿堂館（多環境対応型展示施設、園芸相談室、標本室、教育学習施設等）
- 空中回廊（トリの目）、屋内植物模型遊具（ムシの目）
- 桜の園・梅林園
- ゲート増設（桜の園・梅林園ゲート、府立大学ゲート）
- ボタニカル・ウインドウ、テラス
- 植物情報システム
- 巡回トラム（電気自動車、ベロタクシー等）の運行
- 既存栽培展示エリア等のリニューアル、整備（沈床花壇、あじさい園など * 順次整備）



※ 観覧温室、桜林

3 整備手法等

- 多様な施設整備を計画的かつ効率よく図るため、施設の性格に応じた整備手法をとる必要があります。
- また、老朽化した施設・設備のリニューアルを計画的に行うとともに、良好に維持管理していくため、府民と一緒に支える取組みとして植物園基金の創設等についても検討する必要があります。

① 施設の性格

- 基盤整備（水道・電気、IT、バックヤード、園路など）
- 魅力創出施設（生物視界展示、魅力やすらぎスポット、植物殿堂館、技と知恵、栽培文化の伝承・展示、話しかけ展示など）
- 飲食等提供施設や収益施設（エントランス、レストラン、カフェなど）

② 整備手法のバリエーション

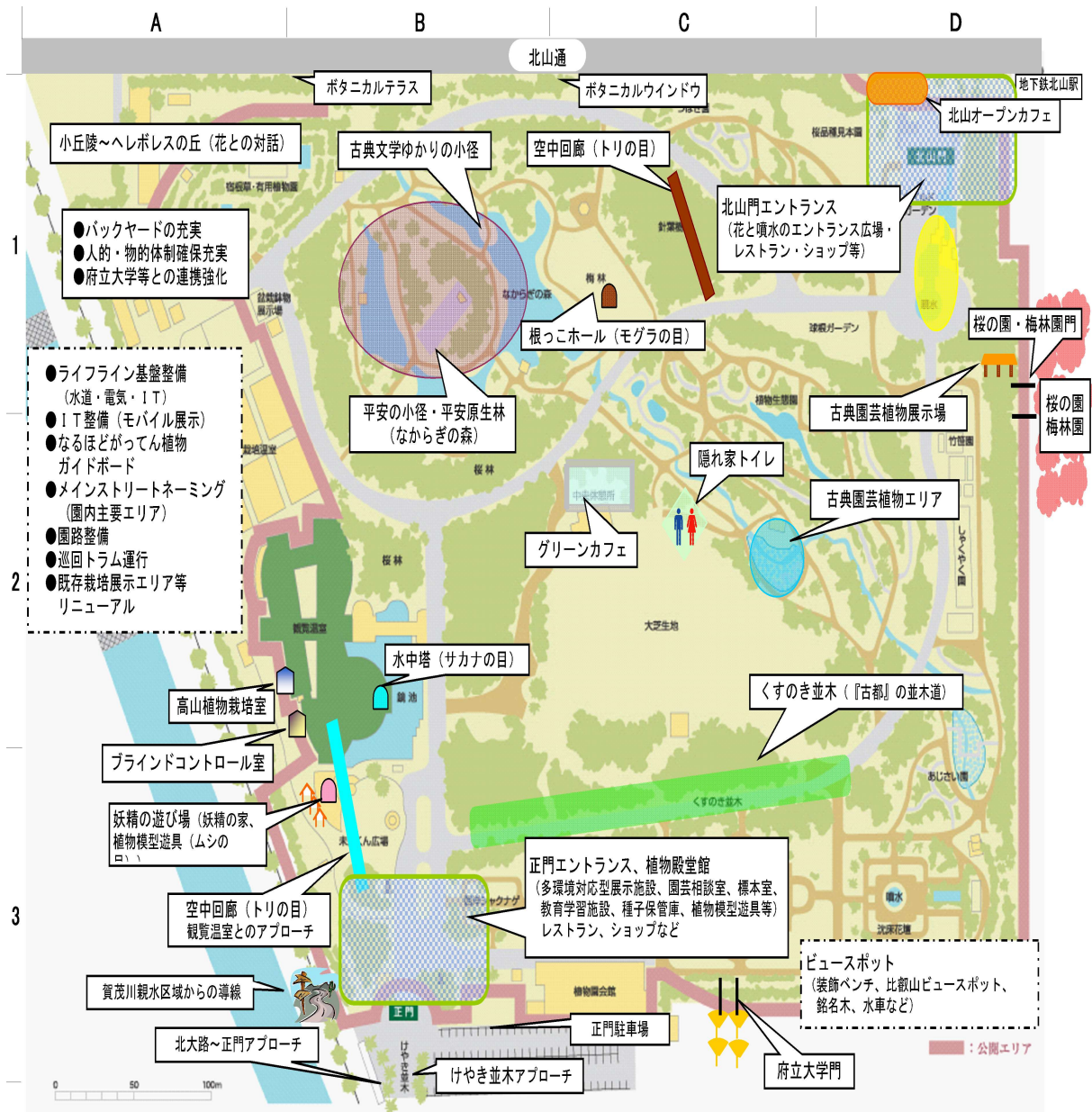
基盤整備や魅力創出施設の整備は府の直営整備を基本とし、飲食等提供施設など収益的施設については、必ずしも直営方式にこだわらず、民間のノウハウや資本等の活用を検討することが妥当と考えられます。

4 体制整備

- 現在、個人の才能と努力によって世界水準と評価される成果を上げ続けている人材が次々と定年年齢を迎えつつある中で、求められる業務内容についても、質的・水準的に一段と高度で多岐にわたる内容となっています。
- また、府民の皆様の植物園への期待に応えていくためにも、職員体制について計画的な整備を行う必要があります。

○ 現在、世界水準として認められている高い植物栽培技術を着実に継承するとともに、エポックに応じ新たに整備する施設を効果的に活用していくため、採用時点からより豊富で幅広い理論・知識に裏付けられた熱意ある人材を確実に補充し、育成していくことが不可欠です。

V 整備計画イメージ図



◇ 府立植物園施設整備計画検討委員会委員

(委員は50音順)

氏 名	現 職 名
邑田 仁	日本植物園協会会長・東京大学小石川植物園園長 (座長)
梶田 真章	法然院貫主
公文 俊一	北山街協同組合理事長
関根 英爾	元京都新聞論説委員
竹葉 剛	京都府立大学学長
塚本 眞理	(有)コンパイル代表取締役
戸部 博	京都大学大学院理学研究科教授
福村 毅之	北大路商店街振興組合理事長
松谷 茂	京都府立植物園園長
森田りえ子	日本画家
高林 成年	(財)京都園芸倶楽部会長・元京都府立植物園園長 (オブザーバー)

◇ 検討経過

	開 催 年 月 日	主 な 検 討 内 容 等
第1回	平成21年6月 5日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の設置 府立植物園の現状確認 将来像・整備コンセプト
第2回	平成21年6月26日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施設・方策等の検討 「府立植物園施設整備計画」の検討中間状況
第3回	平成21年7月22日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画 (案) (施設整備の考え方、整備工程・整備手法等)